

乳児期のコミュニケーションおよび異感性間協応の 発達としての顔の動きの模倣の研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Ikegami, Kimiko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00066367

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



乳児期のコミュニケーションおよび異感性間協応の発達としての顔の動きの模倣の研究

Research Project

All

Project/Area Number

06205202

Research Category

Grant-in-Aid for Scientific Research on Priority Areas

Allocation Type

Single-year Grants

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

池上 貴美子 金沢大学, 教育学部, 助教授 (10242512)

Project Period (FY)

1994

Project Status

Completed (Fiscal Year 1994)

Budget Amount *help

¥1,100,000 (Direct Cost: ¥1,100,000)

Fiscal Year 1994: ¥1,100,000 (Direct Cost: ¥1,100,000)

Keywords

早産児 / 受胎後齢40週以前 / 舌出し顔図版 / 舌出し模倣 / 注視行動

Research Abstract

本年度は主として受胎後齢10週以前の早産児を対象に、4種の舌出し顔図版(正顔、目顔、乱顔、輪郭顔)を静止条件で呈示した後、動作条件で呈示し、両条件下での舌出し模倣、注視反応時間、微笑などを分析して次のことを明らかにした。

- 模倣反応 生起率(反応が1回でも生じた人数/のべ人数)は静止条件よりも動作条件が、また動作条件の正顔、目顔、乱顔が輪郭顔より高かった。
- 注視反応時間 注視時間は静止条件より動作条件で長かった。これは動く舌が注視を惹いたことによると考えられる。両条件下で正顔、目顔、乱顔が輪郭顔より長く注視され、正顔と乱顔に対する注視反応は近似した。「目」は注視を惹きやすかった。

注視反応と模倣反応の図形選好のパターンが似ていることは(正顔≒目顔≒乱顔>輪郭顔)、早期(受胎後齢40週前後)早産児に一体的な非感覚様相的知覚amodal

perceptionを想定させる。顔図版の選好には明暗の複雑性(正顔、乱顔)とコントラストの要因が推察されるが、Bachs(1985)の、顔は見るのが容易いからreadily visible選好されるという感覚仮説(sensory hypothesis)や、Klciner(1988)の視覚選好は平面刺激の物理的特性と視覚系の感受能力に基づくとする線形システムモデル、乳児のコントラスト感受能力と顔のパターンが持つ振幅スペクトラムが適合するため、感受可能な振幅成分が最大になるパターンが選好されるとするエネルギー仮説(energy hypo.)が示唆される。

3.微笑、拒否反応 生起率(反応が一回でも生じた人数/のべ人数)は少なく、全体として条件差は認めにくい。正顔と目顔に微笑が現われ、非常に少ないが乱顔に拒否(こわばり、退き、洗面)が現われた。模倣や注視反応と図版選好パターンが異なり、発現が別系統であることを示唆させる。

4.受胎後40週前後の早産児の模倣と注視行動は、満期産児の図版選好パターンとは異なるが、模倣と注視の一体性を想定させる点では似たメカニズムがうかがえた。

5.今後更にデータを集積して生下時の体重(SFD,AFD)、在胎週数(32週以下,以上)により群化し諸測度の検討を行えば、舌出し模倣に関する初期異感性間協応のメカニズムが、また現在進行中の満期産新生児との比較から、初期の経験の意味が明らかにされる。

Report (1 results)

1994 Annual Research Report

Research Products (4 results)

All Other

All Publications (4 results)

- [Publications] 池上 貴美子: "乳児期のコミュニケーション及び異感性間協応の発達としての顔の模倣の研究" 『認知・言語の成立』報告書, 23-28 (1994) ▼
- [Publications] 池上 貴美子: "乳児期のコミュニケーション及び異感性間協応の発達としての顔の模倣の研究" 『認知・言語の成立』報告書, 151-152 (1994) ▼
- [Publications] 池上 貴美子: "早産児の舌出し顔図版に対する注視行動と模倣" 日本教育心理学会第36回総会発表論文集, 36, 126 (1994) ▼
- [Publications] 池上 貴美子: "生活年齢と修正年齢" 『発達』61号 ミネルヴァ書房, 66, 8-10 (1995) ▼

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-06205202/>

Published: 1994-03-31 Modified: 2018-06-07